

## IV-36 神通川、庄川産骨材の2,3の性質について

県立富山工業高等学校

正員 浅尾敏夫

### (1) まえがき

富山県の2大河川、庄川、神通川産骨材の諸性質に関する報文が発表されてゐるが、本実験は、両河川骨材の使用、コンクリートの圧縮強度及、物理的諸性質を実験した結果を述べた。

### (2) 骨材の物理的諸性質について

使用した骨材は国道8号線附近のものにて、神通川産は富山大橋附近、庄川産は雄神橋附近から採取したものと試料とした用いた。

#### (1) 粒度 骨材の粒度実験は總て乾燥状態にて。

粗骨材は40mm網フルイ、細骨材は5mmフルイを通して、ふろひ分けを行なった。試験の結果は表-1、図-1のごとくである。両河川細骨材共0.9mm、0.15mmのフルイを通過するような細かい粒径のものが少ないと認められる。神通川産粗骨材は、標準粒度に比し10mmフルイ通過するような細かい粒径のものが15%程度少なかった。

(2) 細骨材の比重・吸水量 試験結果は図-2のごとくである。吸水量は庄川産1.71%、神通川産1.84%であった。

(3) 粗骨材の比重・吸水量 試験結果は図-2のごとくで、吸水量は庄川産1.22%、神通川産1.24%であった。

(4) 骨材の洗い試験 洗い試験は最大寸法5mm程度のものにて行なった。試験結果は庄川産0.3%、神通川産0.3%にて、各れも粉末状物質の含有量は極めて少量と認められる。

(5) 砂の有機不純物 両河川骨材共に標準色より淡く、有機不純物の有害はないとのと認められる。

(6) 骨材の単位重量 捣突式試験を行なった。結果は、図-3のごとくである。

(7) 空隙率 砂利は庄川産32.1%、神通川産34.5%砂は庄川産35.5%、神通川産37.7%であった。

### (3) コンクリート及、試験方法

#### (1) コンクリート材料

表-1. 骨材の粒度

骨名	产地	40mm	25mm	20mm	16mm	10mm	5mm	2mm	1mm	底	粗粒率%
砂利	各個	10.0	15.0	26.0	23.0	16.0	6.0	0.0	0.0	0.0	10
砂利	平均	2.0	3.0	5.0	5.0	7.0	2.0	0.0	0.0	0.0	5.5
粗骨材	各個	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
粗骨材	平均	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
庄川	各個	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
庄川	平均	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
石	各個	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
石	平均	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
備考	各々7回の測定値の平均値を示す。										

図-1. 粒度加積曲線表

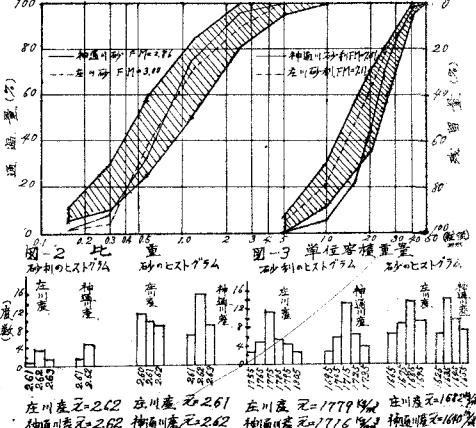


表-2. 用いたセメントの物理試験成績

セメント	比重	初碎率	最終碎率	安全度	初期吸水量	初期凝結時間	初期強度
日本製鉄	3.15	2.60	1.56	3.13	安全	18.9	61.6

表-3. 用いたコンクリートの配合。

混和割合	セメント量	砂利量	砂量	水セメント比	初期強度	初期吸水量
30	1.2	1.5	1.83	0.53	41	7.9

表-4. コンクリートの圧縮強度試験結果

実験整理番号	コア(直径×高さ)(cm)	空気量(%)	単位重量(kg/m <sup>3</sup> )	初期強度(%)
1	10.5°C	12.5	2.32	31
	11.0°C	12.8	2.42	2.62
	11.5°C	13.0	2.43	2.61
	12.0°C	15.0	2.43	2.47
2	11.0°C	11.3	2.0	2.32
	11.5°C	12.5	2.2	2.60
	12.0°C	12.8	2.2	2.58
	12.5°C	13.7(100)	2.24(100)	2.74(100)
3	8.5°C	12.6	2.0	2.53
	8.2°C	12.1	2.45	2.22
	8.5°C	21.0	2.83	2.67
	9.0°C	12.0	2.45	2.57
4	9.5°C	14.0	2.43	2.94
	10.0°C	12.0	2.57	2.71
	10.5°C	12.0	2.57	2.71
	11.0°C	13.7(100)	2.48(100)	2.83(100)
平均値	8.7°C	13.7(100)	2.48(100)	2.74(100)
参考値	8.7°C	13.7(100)	2.48(100)	2.74(100)

参考値は神通川産骨材便用、庄川産骨材便用の平均強度である。

備考: 各河川骨材を用いて、各河川骨材の強度結果を示す。

参考値は庄川産骨材便用、庄川産骨材便用の平均強度である。

(1)セメント 小野田普通ポルトランドセメントを用いた。

骨材の使用に当たっては、粗骨材は10mm網フルイを通して、充分洗練したもの。細骨材は室内で乾燥したものを用いた。

(2)コンクリートの配合 普通の鉄筋コンクリート構造物に用ひられてゐるものと対象に考えた。コンクリートの配合は、表-3に示すごとくである。

(3)練り混ぜ、成型、練り混ぜには2切可傾式ミキサを用いた。1バッチの量は40Lと1t、材料の投入を終了から2分間練り混ぜたつち、3分間ミキサを止め、さらに1分間練り混ぜた。コンクリートの温度は平均10°Cであった。

#### (4)供試体の養生

成型を終った供試体は射出2昼夜で脱型し、20°Cの水中に入れた。4週間材令の圧縮試験を行なた。圧縮試験機は、アムスラー型容量100tである。供試体は、1組6個とした。供試体の総数は36個である。

#### (5)まとめ

本実験の範囲から得られた結果を要約すると、次のとおりである。

(1)神通川産骨材を用いたコンクリートでは、庄川産骨材を用いたコンクリートより、圧縮強さが2%強いくびれ認められる。

(2)コンクリート単位重量は、神通川産骨材を用いたものは、庄川産骨材に比し、0.5%小さいことが認められる。

(3)コンクリート空気量は、神通川産骨材を用いたものは、0.3%大きかった。

(4)スランプは、神通川産骨材を用いたものは、庄川産骨材に比し、15%小さかった。

(5)骨材粒度は、標準粒度に比し、粗骨材は神通川産がやや粗く、細骨材は、両河川共215mm、230mmのフルイを通過するようだ。細かい粒径のものがやや不足しているが、標準粒度と比較し、満足なコンクリートを造るに適した粒度と思われる。

(6)骨材比重は、粗骨材は神通川産、庄川産共1.262で、細骨材比重は神通川産が、やや大きかった。

(7)骨材の単位容積重量は、両骨材共庄川産は、神通川産に比し、2~3%大きかった。

(8)空隙率は粗細骨材共庄川産のものは、神通川産に比し、約6%少なかった。

(9)細骨材共粘土状物質及、有機不純物の有害性両河川共右のと認められる。

以上は広範囲な地域より採取した試料でなく、国道8号線の附近より採取した1部分の試料による実験から得られたもので、普通の方結論ではないが、両河川の骨材の諸性質、及、コンクリートに及ぼす影響等につけて、何うか参考となれば幸である。

終りにこのために、実験に終始御協力いただきました富山県土木課勤務、田島清作君、及、本校職員、森口昭和君に心から感謝する次第である。

図-4  
コンクリート圧縮強度ヒストグラム

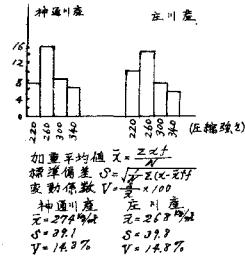


図-5  
コンクリート単位重量ヒストグラム

